2. 中学受験と家庭・塾・学校

この章の要約

1. 前章では、中学受験の動機や、志望校など、受験そのものを中心に考察を進めた。

2. 本章では、中学受験の周辺（家庭・塾・学校）の各場面において、受験する場合としない場合とで、どの様に差が生じているのかについて、探ってみた。

3. 中学受験希望者の84.5%が進学塾へ通い、補習塾を加えると実に97.4%が、現在通塾している。

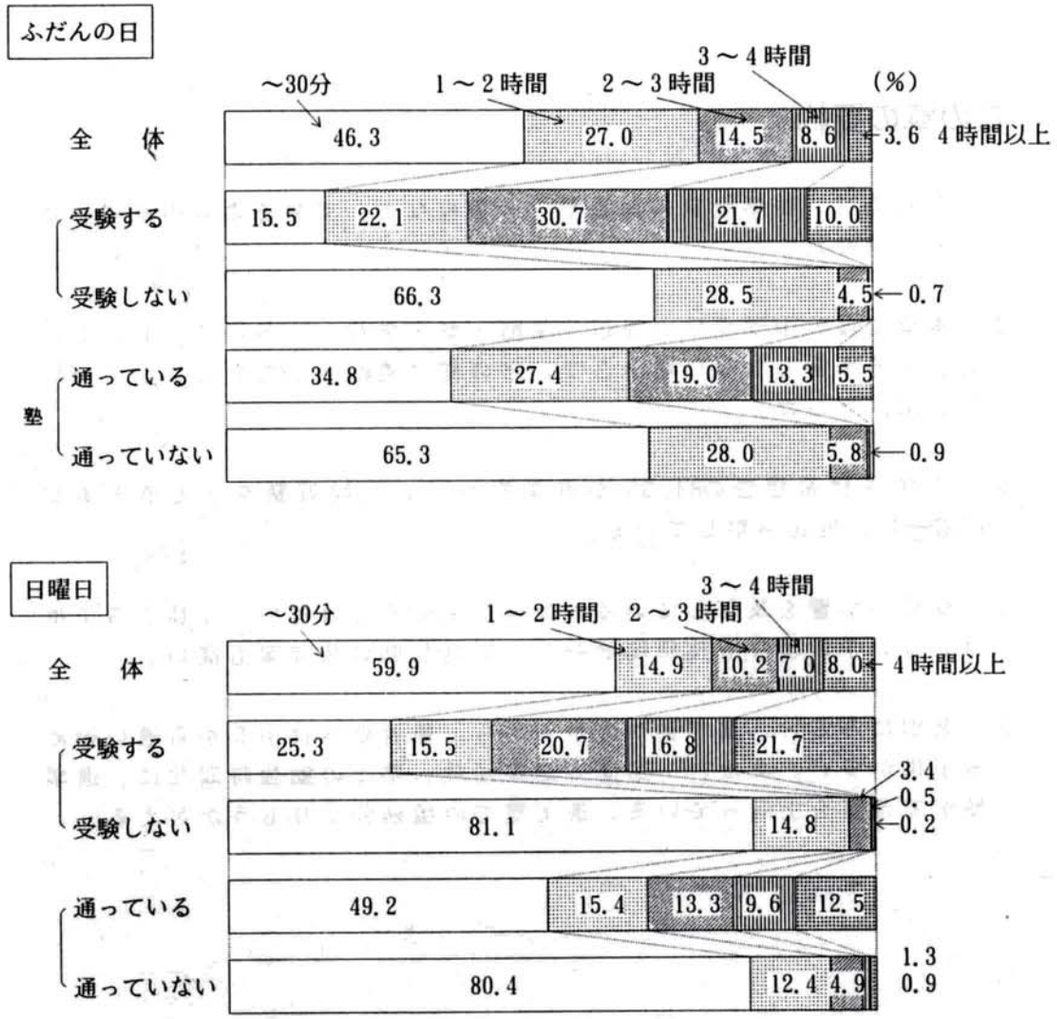
4. 受験が影響を及ぼしているのは通塾率のみではない。受験する子供はしない子供よりも長時間勉強し、家庭教師の依存率も高い。

5. 塾別にみると、進学塾へは小4から、補習塾へは小5から通い始める子供が多い。また、1週間の通塾回数、塾での勉強時間共に、進学塾が補習塾を上回っている。進学塾での猛勉強ぶりもうかがえる。

〔1〕家での学習時間は（母親調査）

勉強時間は、受験をする子供は、2～3時間が多く30.7%、受験をしない子供は30分以内が66.3%である。

＜図2－1＞　家での学習時間

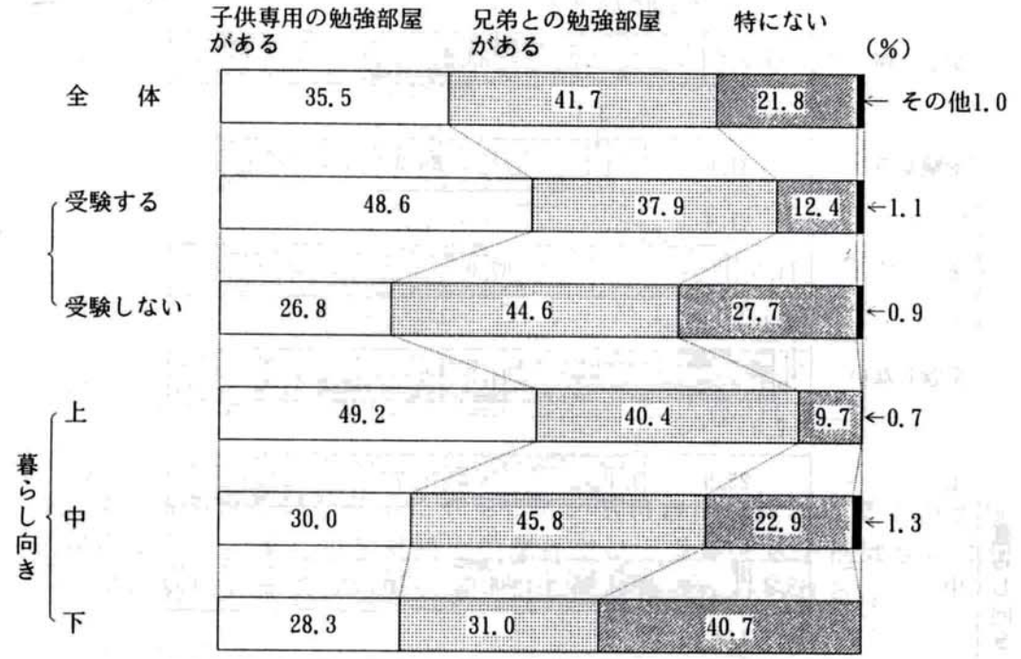


※ 受験をするか、しないかによって勉強時間にたいへん大きな差がみられる。ふだんの日で3時間以上という勉強時間については、受験する子供は31.7%、しない子供は5.2%というように差が大きく開いている。受験をする子供は勉強時間30分以内が全体に比べてたいへん少ない。

〔2〕勉強部屋の有無（母親調査）

受験をする子供では、専用の勉強部屋のある子供が48.6%であり受験しない子供は26.8%である。

＜図2－2＞　勉強部屋について

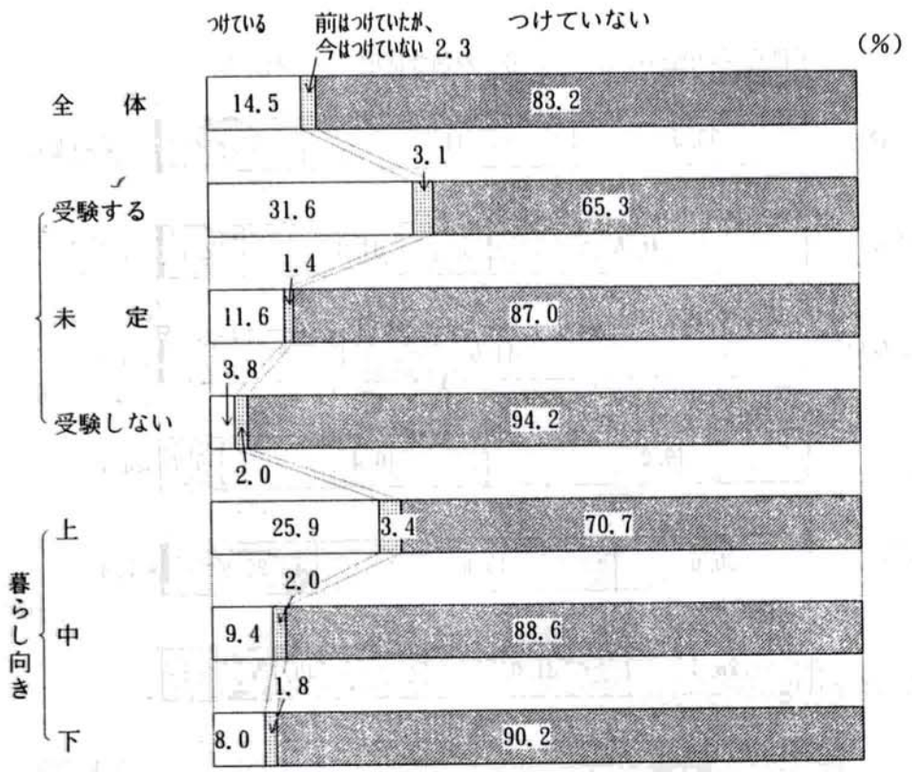


※ 勉強部屋の有無は学習の効率に影響を与えると考えられているようだ。受験をするしないでは、受験する8割以上の家庭では、子供部屋が何らかの形で用意されているようだ。

〔3〕家庭教師をつけているか（母親調査）

受験をする子供の、31.6％が家庭教師がついている。

＜図２－３＞　家庭教師について

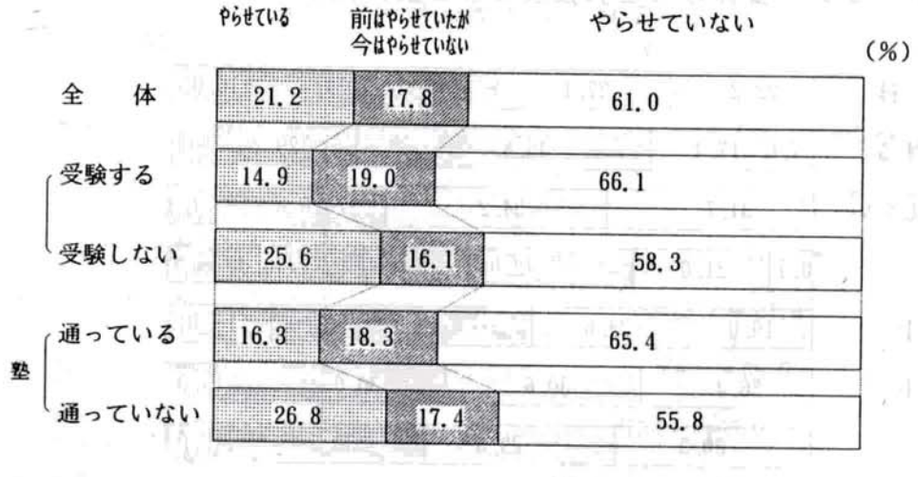


※ 家庭教師をつけている人は全体で14.5％である。しかし、受験をする子供の３割ほどが家庭教師についていることは注目に値しよう。また「暮し向き」でみると、暮らし向きが「上」と答えている家庭の25.9％が家庭教師をつけている。

〔4〕家庭用学習教材を使用しているか（母親調査）

中学受験との関連でみると、受験をしない方が１０ポイントほど高く、家庭用学習教材で学習している。

＜図２－４＞　家庭用教材をやらせているか

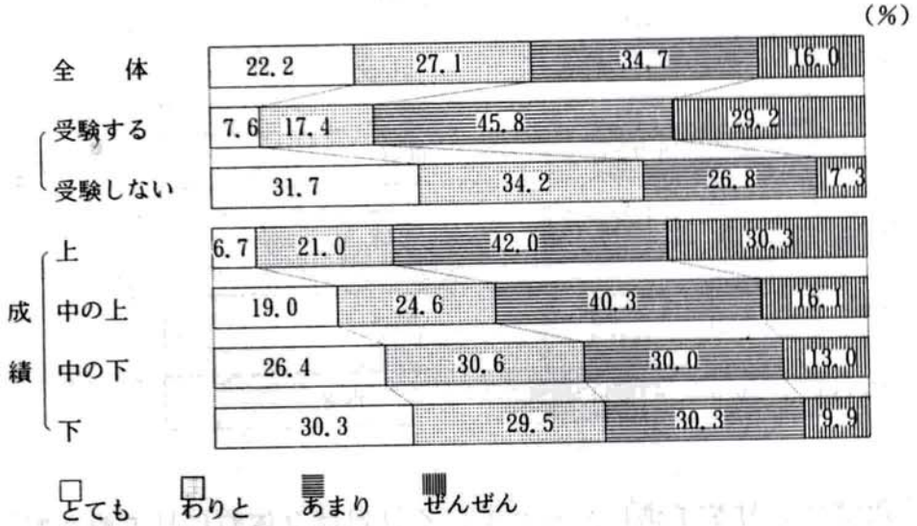


※ 家庭用学習教材を子供にやらせている母親は全体的に見て約２割程度である。また中学受験との関係では、受験する子供はさらに利用度が低い。塾に行っている子供も同じ傾向がみられる。

〔5〕夏休みのすごし方は（子供調査）

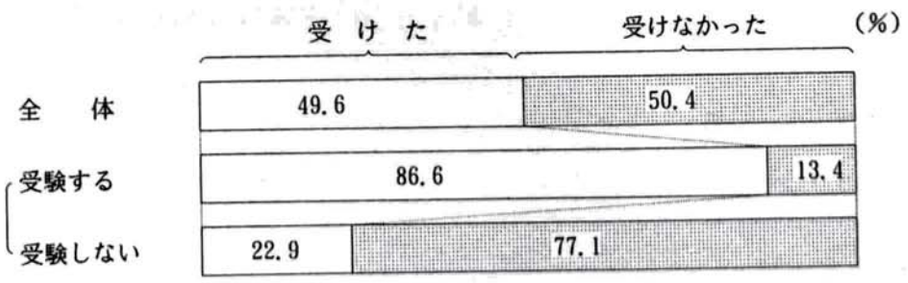
“夏休みに友だちとあそびましたか”という問いに対して、「あそんだ」という回答は、受験する子供が25.0％、受験しない子供が65.9％で受験する子供のほうが少なかった。

＜図２－５＞　夏休みにどれ位友だちと遊んだか



※ 受験する子供は夏休みに友だちとあまり遊んでいない。これを成績別にみると成績が上位の子供ほど“あそばなかった”と回答している。受験のために子供たちはせっかくの夏休みを犠牲にしているのだろう。また、受験する子供の86.6％が夏休みに塾などの夏期講習を受けている。また受験しない子供も22.9％が受けている。

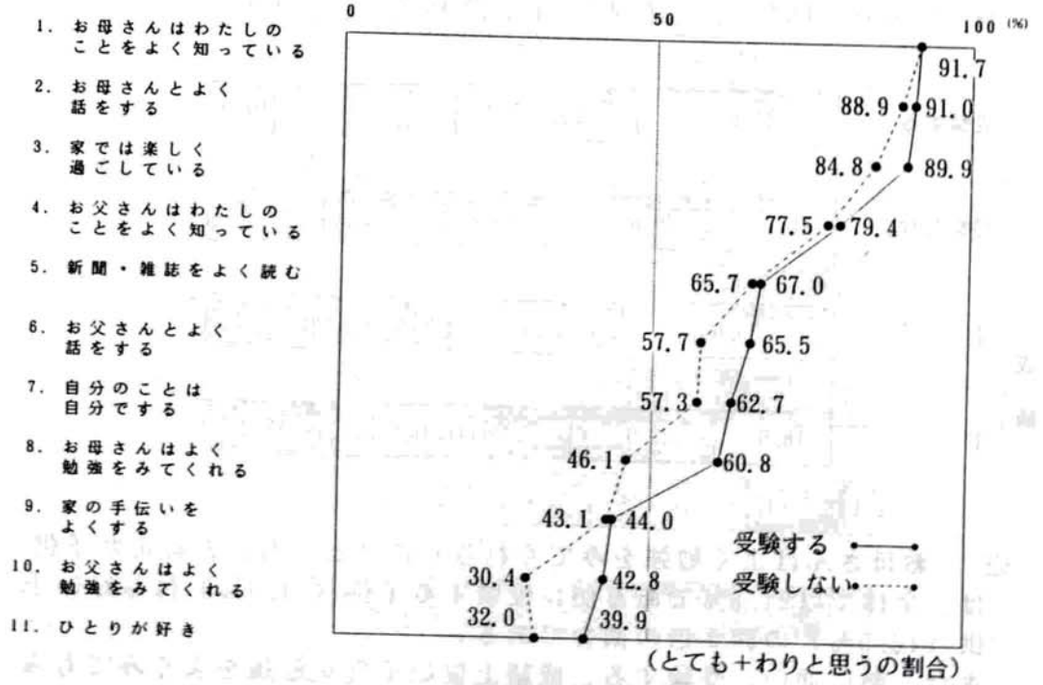
＜図２－６＞　夏休みに塾などの夏期講習を受けた



〔6〕家での子供のようすは（子供調査）

子供は、受験予定に関係無く、両親とのふれあいが多く、家では楽しく過ごしている。また、受験する家では、お母さんがわが子の勉強をよく見ている。

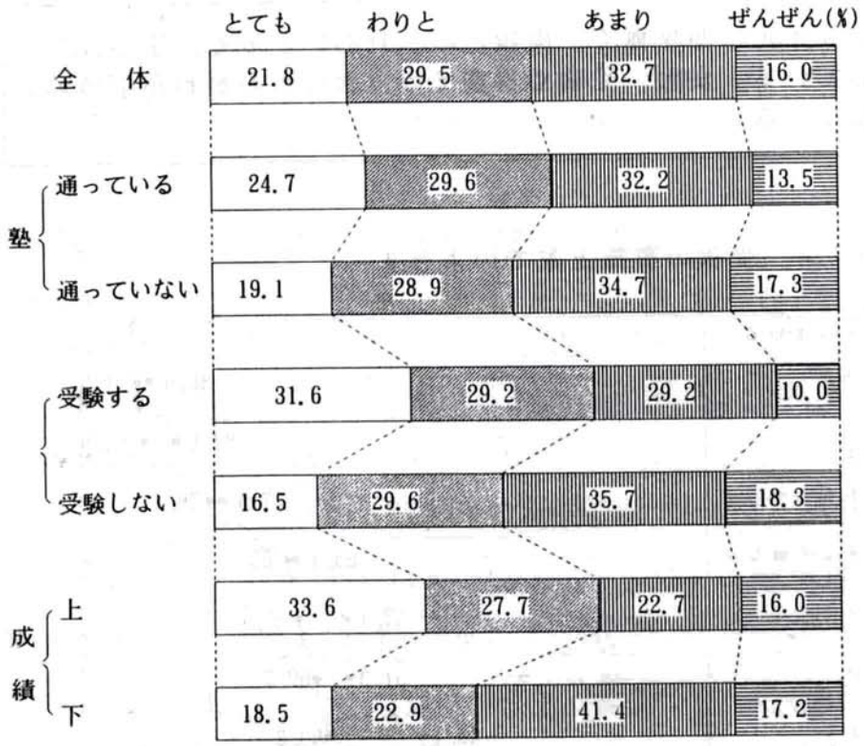
＜図２－７＞　受験の有無と家でのようす



（とても＋わりと思うの割合）

※ 受験に関係無く、約９割が家では楽しく過ごしている（とても＋わりとそう思う、と答えた割合）。両親は「自分のことをよく知っている」が、とりわけお母さんの方がより知っていると思っている（91.7％）。「よく話をする」のはお母さんだが、お父さんとも約６割がよく話をしていると答えている。
数値に差が現れているのは、「お父さんはよく勉強をみてくれる」「お母さんはよく勉強をみてくれる」という両親に勉強をみてもらっている割合である。
受験する子供の60.8％はお母さんによく勉強をみてもらっているが、この項目についてさらに詳しくみてみたい。

＜図２－８＞　お母さんは勉強をみてくれるか（子供調査）



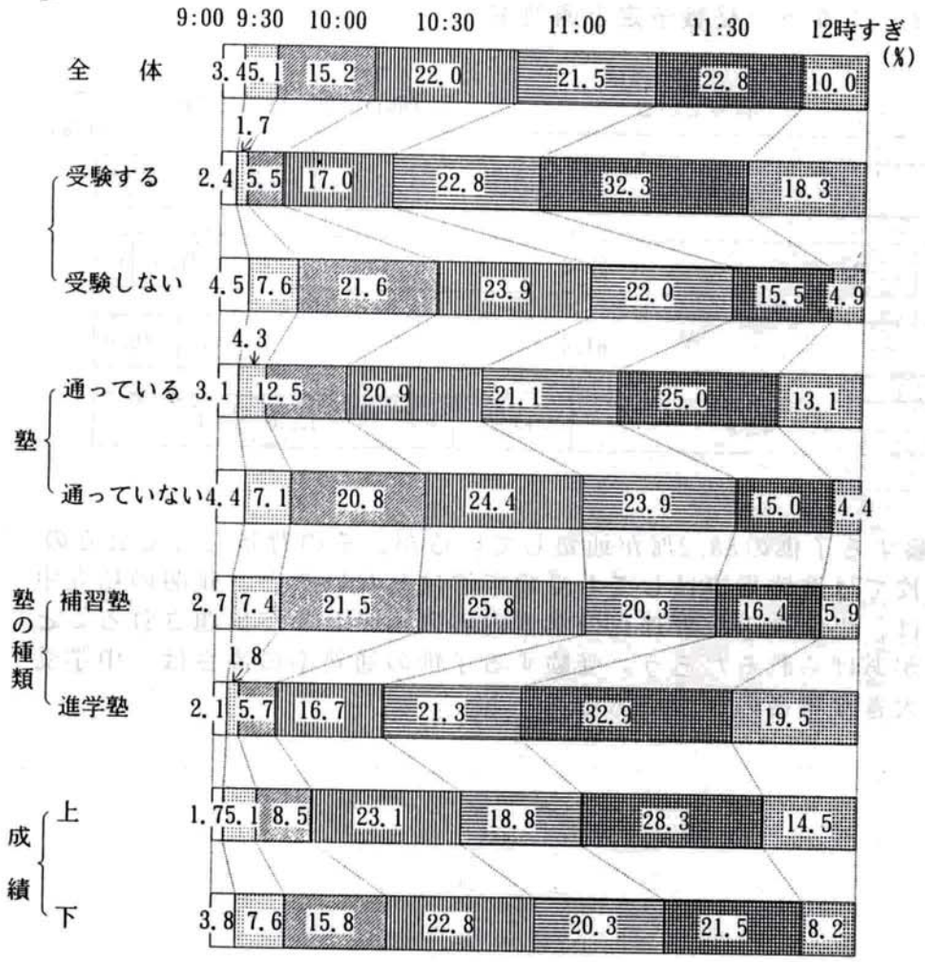
～

※　「お母さんはよく勉強をみてくれる」に「とても」と答えた子供は、全体では21.8％であるが、受験する子供（31.6％）はしない子供（16.5％）の約２倍の割合である。
また、塾に通い、受験する、成績上位の子供が勉強をよくみてもらっている。成績が上位の子供は、下位の子供より、お母さんによく勉強を見てもらっている。受験や成績アップに「お母さん先生」が活躍しているといえるだろう。

〔７〕何時に寝るか（子供調査）

10時30分～11時30分のあいだに全体の66.3％が就寝しているが、受験する子供の約７割が11時すぎまで起きている。

＜図２－９＞　何時に寝るか

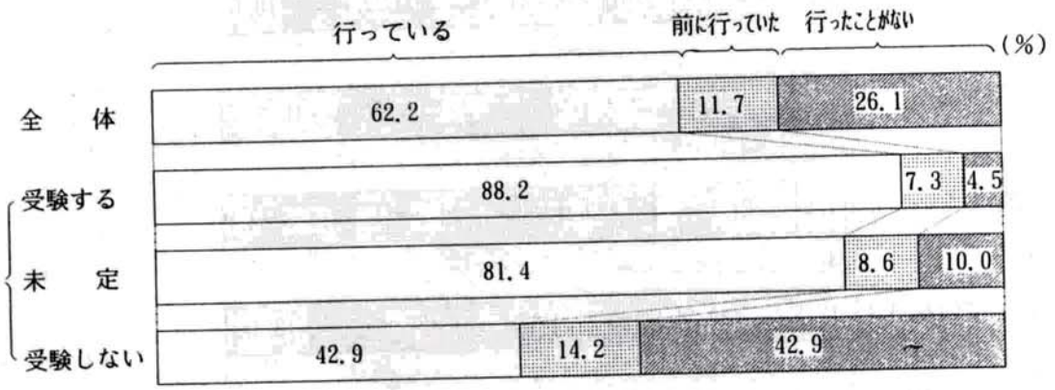


※　受験しない子供、塾に行っていない子供、塾でも補習塾に行っている子供の５割以上が10時30分ごろには就寝している。やはり、受験する子供、進学塾に行っている子供は寝る時間が遅く、成績別でも、上位層の方が就寝時間が遅い。
11時ごろまでに寝ている子供の割合は、受験しない子供では79.6％に対し、受験する子供は49.4％と睡眠時間を削って受験勉強をしている様子がうかがえる。

〔8〕学習塾へ通っているか（子供調査）

中学受験する子供の約９割が学習塾へ通っている。
全体では、62.2％が現在通塾しているが受験予定別に比較すると、受験する子供の88.2％、未定の子供の81.4％が通塾している。一方、しない子供では42.9％が現在通塾している。

＜図２－１０＞　受験予定と通塾率

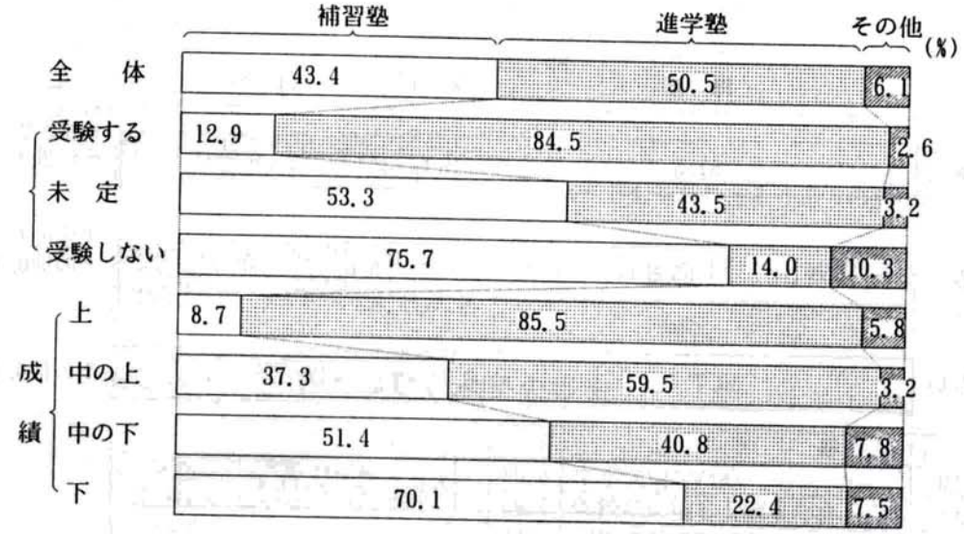


※ 受験する子供の88.2％が通塾しているが、その背景として公立の小学校では進路指導はしても受験指導はしないこと、難関の私立中学では、小学校の教育課程の学習内容以上のものが出題されることなどがあげられるだろう。受験する子供の通塾率の高さは、中学受験の大きな特徴の一つである。

〔9〕通っている塾の種類は（子供調査）

現在、塾に通っている子供の全体では、補習塾43.4％、進学塾50.5％、その他 6.1％である。成績上位の子供には、受験のために、下位の子供には学校の補習として塾は機能しているようだ。

＜図２－１１＞　塾の種類について

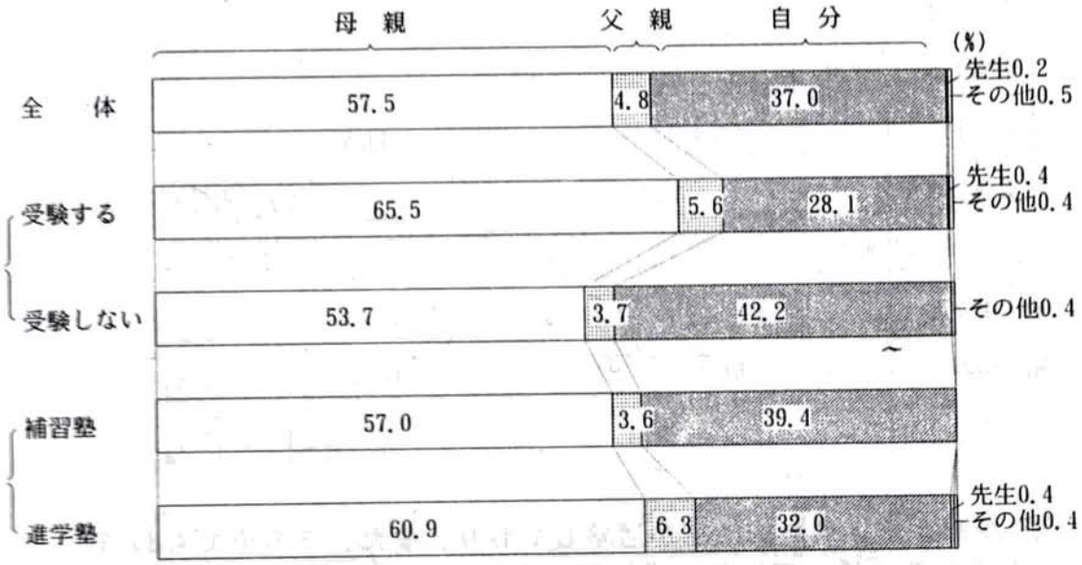


※ 受験する子供の88.2％が通塾しており、また、その中でも84.5％が進学塾へ通っている。成績別にみると、成績上位の子供の85.5％が進学塾へ、一方、下位の子供の70.1％は補習塾へ通っている。

〔10〕誰が通塾を決めたのか（子供調査）

通塾を決めたのは、母親57.5%、自分37.0%、父親 4.8%の順である。受験する家庭は、受験しない家庭より、母親が決定する割合が高くその差は11.8%。母親の果たす役割は大きいといえよう。

＜図２－１２＞　誰が通塾を決定したか

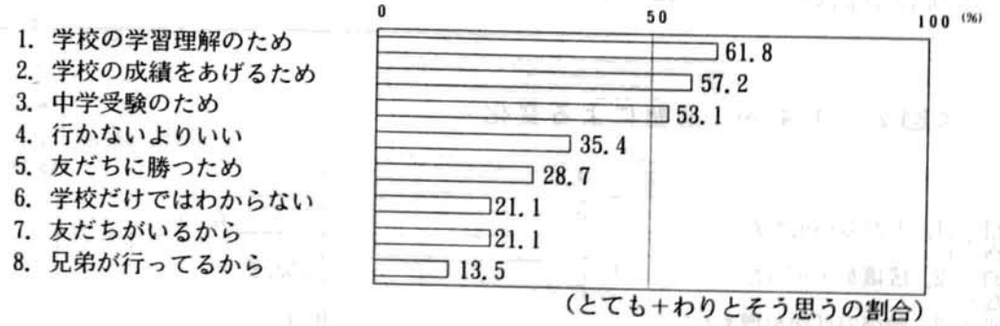


※ 補習塾へ通っている子供と、進学塾へ行っている子供との比較においても、進学塾へ通っている子供達にとって、父母の果たす役割が大きいことがわかる。

〔11〕通塾の理由は（子供調査）

通塾している子供全体では、「学校での学習を理解するため」がトップ。以下「学校の成績を上げるため」「中学受験のため」と続く。

＜図２－１３＞　通塾の理由



（とても＋わりとそう思うの割合）

※ 「とてもそう思う」と答えた子供の割合だけで比較すると「中学受験のため」がトップである。

＜表２－１＞　塾の種類と通塾の理由

順位	補習塾	%	進学塾	%
1	学校の学習理解のため	86.3	中学受験のため	86.7
2	学校の成績を上げるため	68.4	学校の成績を上げるため	49.5
3	行かないよりいい	49.0	学校の学習理解のため	45.2
4	学校だけでは理解できない	36.1	友だちに勝つため	24.0
5	友だちに勝つため	34.7	行かないよりいい	23.0
6	友だちがいるから	23.9	友だちがいるから	19.7
7	中学受験のため	20.2	兄弟が通塾している	13.0
8	兄弟が通塾している	13.3	学校だけでは理解できない	10.4

（とても＋わりとそう思うの割合）

＜表２－２＞　受験予定の有無と通塾の理由

順位	受験する	%	受験しない	%
1	中学受験のため	91.0	学校の学習理解のため	81.5
2	学校の成績を上げるため	57.8	学校の成績を上げるため	64.6
3	学校の学習理解のため	43.4	行かないよりいい	46.7
4	友だちに勝つため	24.1	友だちに勝つため	33.8
5	行かないよりいい	22.4	学校だけではわからない	28.8
6	友だちがいるから	19.4	友だちがいるから	21.6
7	兄弟が通塾している	16.3	兄弟が通塾している	14.0
8	学校だけではわからない	14.8	中学受験のため	11.9

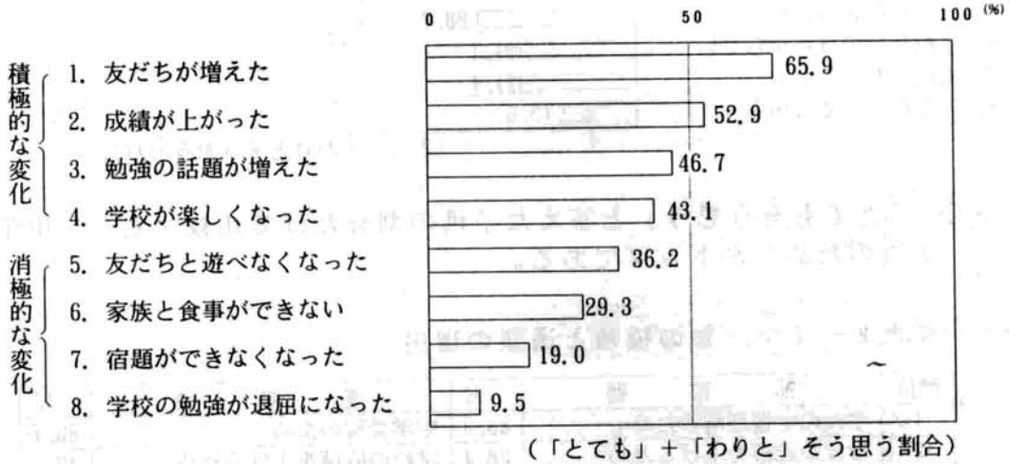
（とても＋わりとそう思うの割合）

※ 塾の種類別にみてみよう。進学塾に通う子供の86.7%は受験のためである。一方、補習塾に通う子供の86.3%は学習理解のためで、学校の成績をあげるため68.4%が続いている。同様のことが受験予定からもいえる。

〔12〕 通塾により変化したことは（子供調査）

通塾によって生じた変化は、まず「友だちが増えた」が65.9％でトップ。次が「成績が上がった」52.9％である。「勉強の話題が増えた」46.7％、「学校が楽しくなった」が43.1％など、積極的な変化の割合が高い。

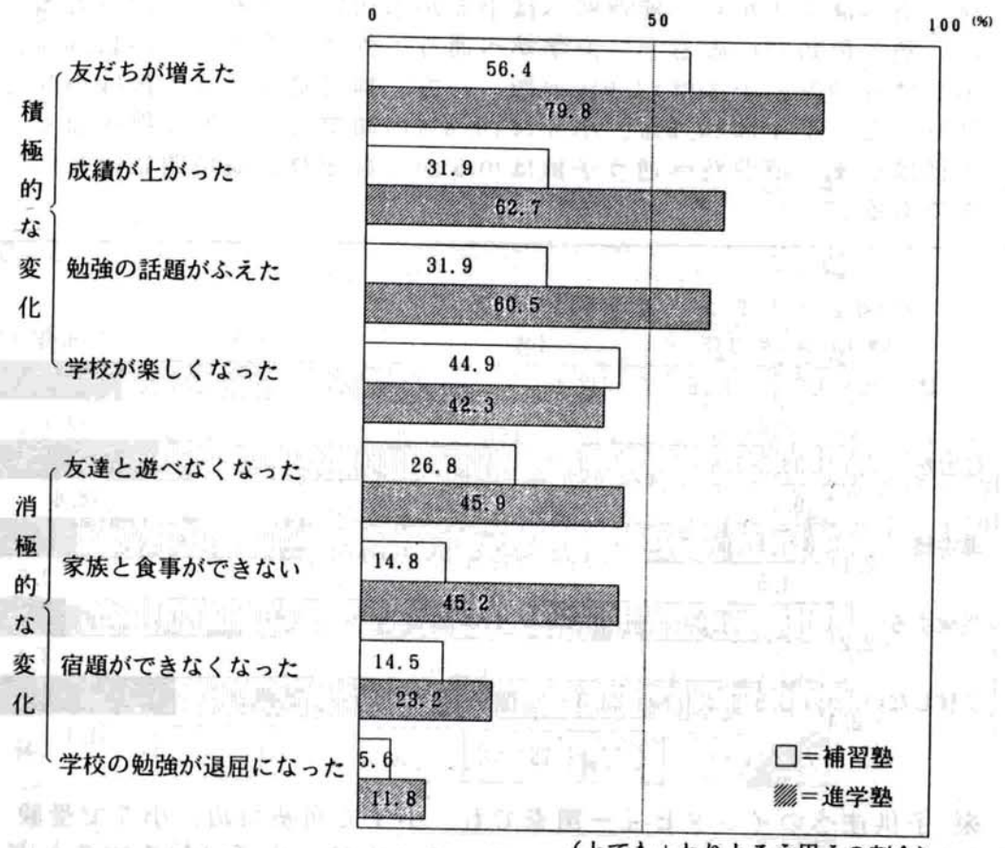
＜図２－１４＞　通塾による変化



（「とても」＋「わりと」そう思う割合）

※ 放課後、友人と遊ぼうにも、皆塾に行っていて遊べないという話をよく耳にする。そうした現代っ子にとって塾は子供たちの社交場としての機能も担っているといえよう。つまり、「友だちが増えた」、「勉強の話が増えた」などのコミュニケーションを生み出してもいる。「宿題ができない」「学校の勉強が退屈」といった、消極的な変化は、予想していたほどではなく意外なことである。

＜図２－１５＞　塾の種類と通塾による変化（子供調査）



（とても＋わりとそう思うの割合）

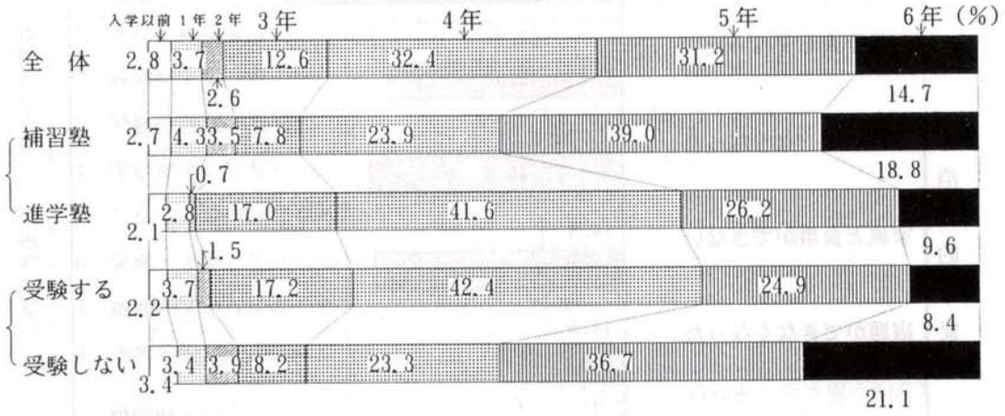
※ 塾の種類別に見ても、ほとんどの項目で、進学塾に通う子供の方が、より、変化が生じていることがわかる。「家族と食事ができない（45.2％）」「友だちと遊べなくなった（45.9％）」など、かなり日常の生活が忙しくなってきているのがわかる。

しかし、一方では「友だちが増えた（79.8％）」、「成績が上がった（62.7％）」など、積極的な変化も進学塾の方が高い。

〔13〕 いつから塾に通い始めたか（母親調査）

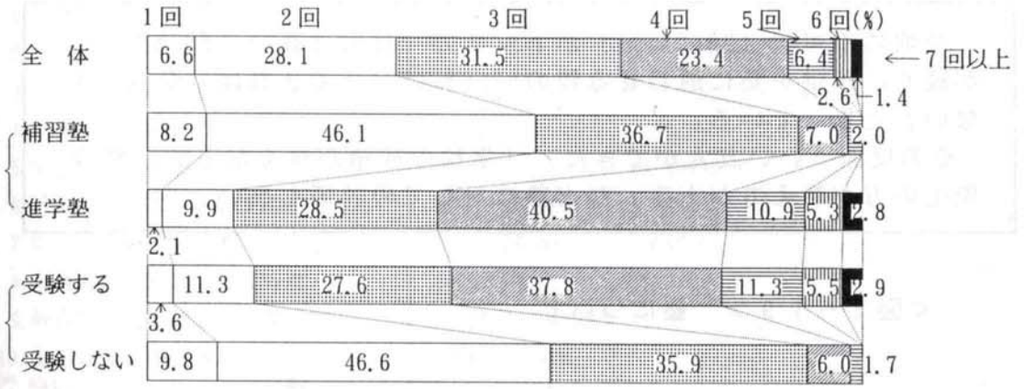
進学塾へは小４から、補習塾へは小５から通い始める子供が最も多い。塾の種類別にみると、進学塾へ通う子供は、小４からが41.6％、小５は26.2％、小３は17.0％の順。一方、補習塾へ通う子供は小５は39.0％、小４は23.9％、小６は18.8％の順である。進学塾へ通う子供は小４、補習塾へ通う子供は小５がそれぞれ、通塾開始のピークである。

＜図２－１６＞　通塾開始時期



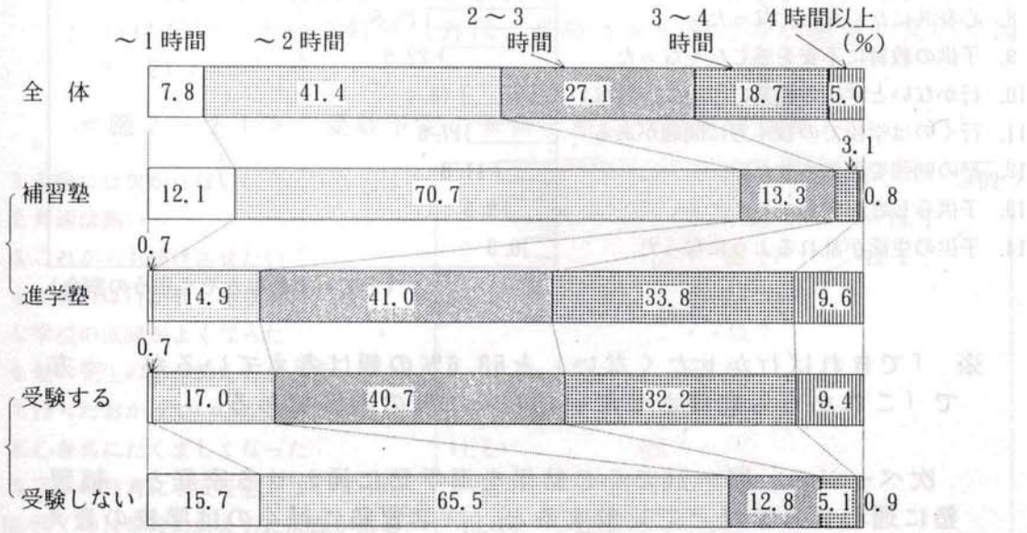
※ 子供達へのインタビュー調査でも、小４で通塾開始、小５で受験を決意というパターンが多かった。小４とは、中学受験をするかどうかの岐路の学年であろうか。

＜図２－１７＞　1週間の通塾回数（母親調査）



※ また、補習塾へ通う子供は、週に２回が最も多く46.1％、次いで３回36.7％、６回以上通っている子供はいない。一方、進学塾へ通う子供は週に４回が最も多く、40.5％、次いで３回が28.5％、４回以上では、全て進学塾の方が割合が高い。

＜図２－１８＞　塾での勉強時間と塾の種類

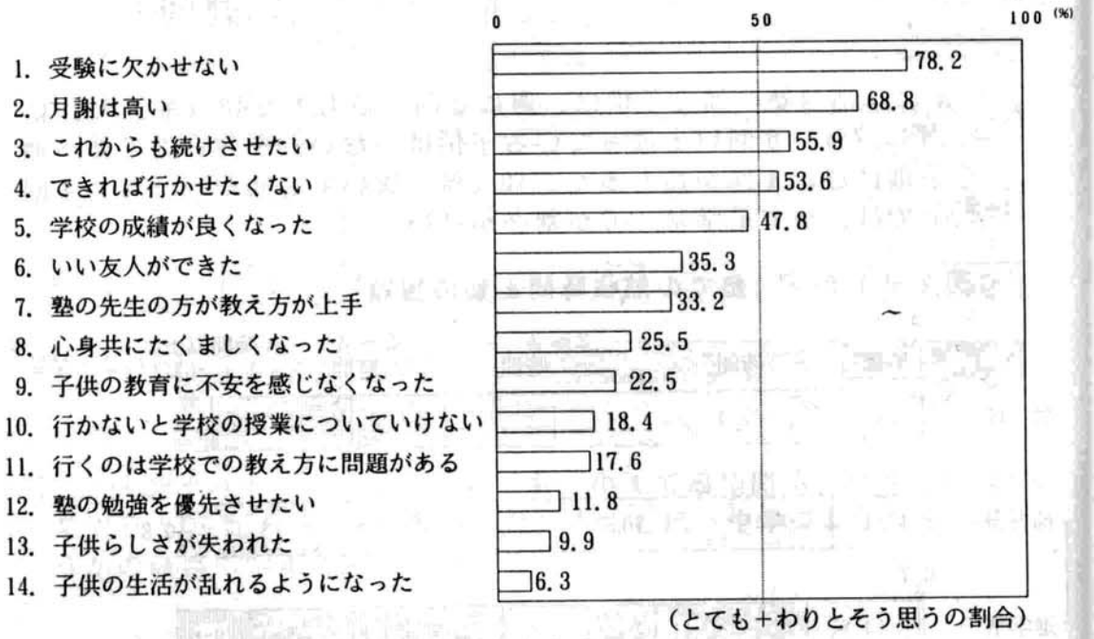


※ 補習塾へ通う子供の塾での勉強時間は１～２時間が最も多く70.7％。これが進学塾へ通う子供となると、２～３時間41.0％、３～４時間33.8％、４時間以上9.6％である。進学塾へ通う子供の猛勉強ぶりがうかがえる。

〔14〕塾についてどう考えるか（母親調査－通塾させている場合－）

「受験に不可欠（78.2%）」がトップで「月謝は高い（68.8%）」が続く。子供を塾に通わせる親の53.6%は、「できれば行かせたくない」と思っている。
その反面「いい友人ができた」「学校の成績が良くなる」「塾の先生の方が教え方が上手」など塾に対しての評価も高い。

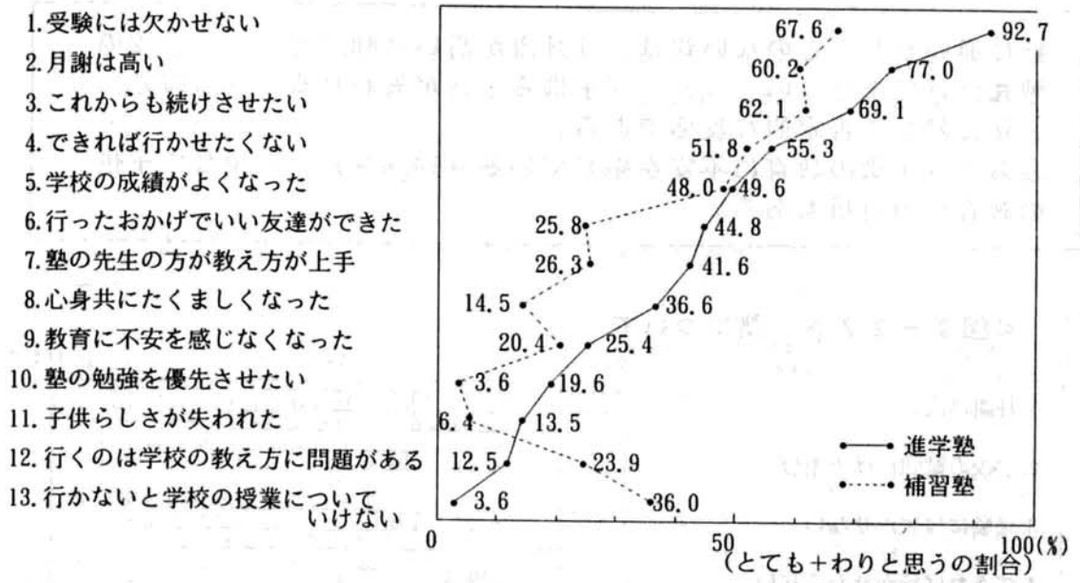
＜図２－１９＞　塾について



※　「できれば行かせたくない」と53.6%の親は考えているが、一方で「これからも続けさせたい」も55.9%の回答である。

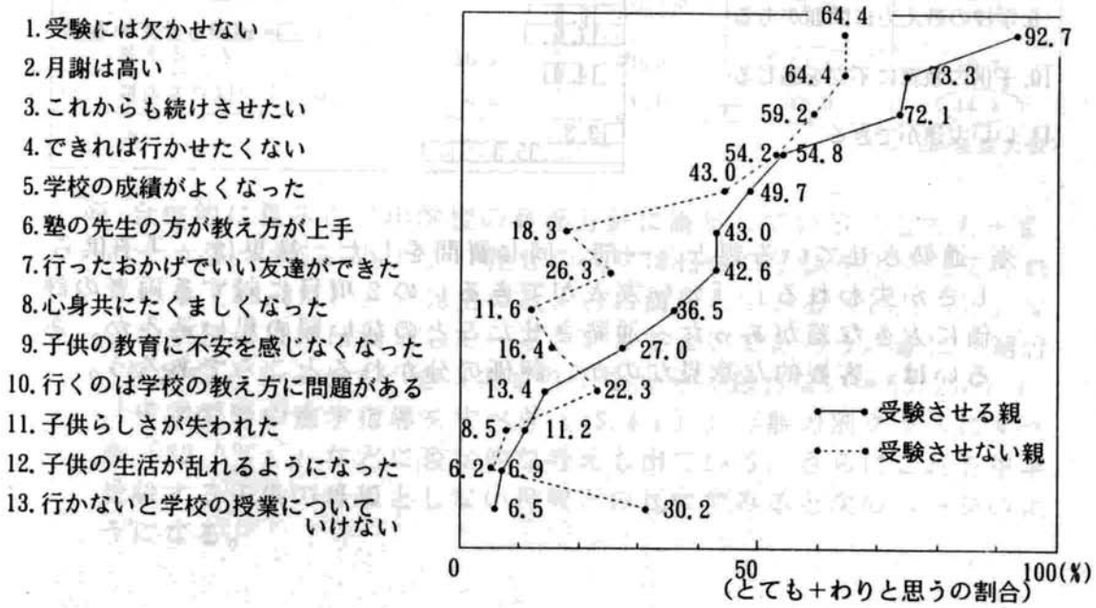
次ページの、図－20でこの結果を進学塾に通わせる家庭と、補習塾に通わせる家庭とで比較すると、「学習塾に行くのは学校の教え方に問題があるから」、「行かないと学校の授業についていけない」という解答以外は、進学塾に通わせる家庭の方が補習塾に通わせる家庭よりも割合が高くなっている。

＜図２－２０＞　塾の種類と塾についての意見



※　また受験させる親と、受験させない親で比較すると、やはり「行くのは学校の教え方に問題があるから」「行かないと授業についていけない」という解答以外は、受験させる親の方が割合が高い＜図２－２１＞。

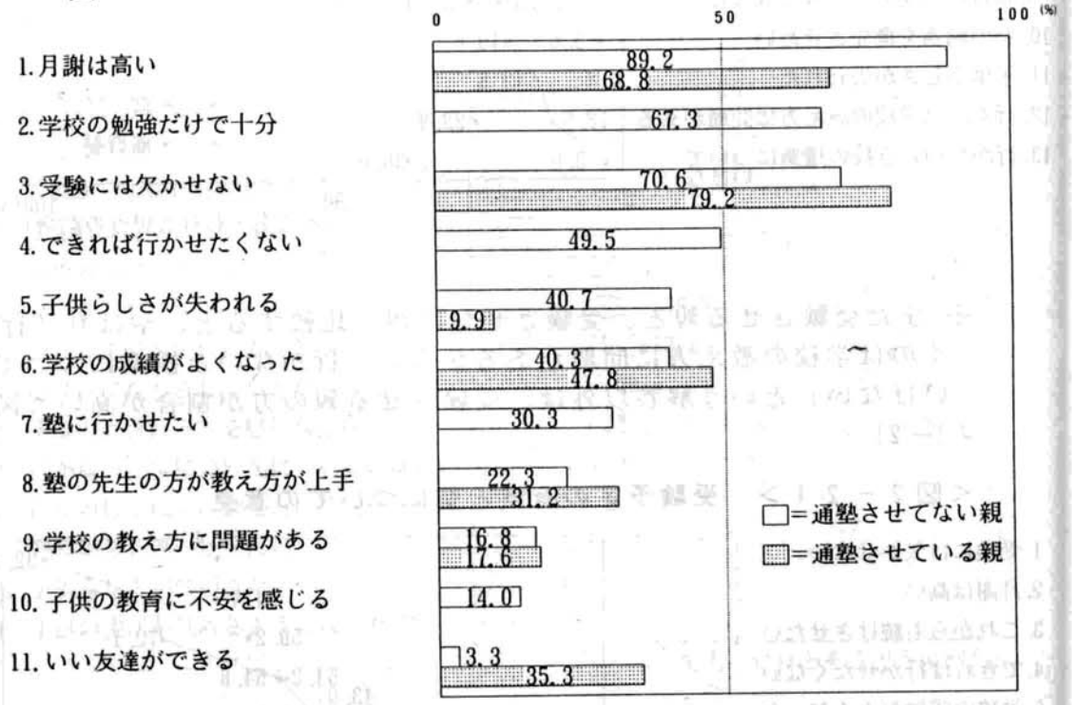
＜図２－２１＞　受験予定の有無と塾についての意見



〔15〕 塾についてどう考えるか（母親調査－通塾させていない場合－）

塾に通わせたことのない親は、「月謝が高い（89.2%）」「学校の勉強だけで十分（67.3%）」「子供らしさが失われる（40.7%）」と塾に対して否定的な反応である。
さらに「子供の教育に不安を感じている（14.0%）」と少なく子供の教育への自信もある。

＜図２－２２＞　塾について



※ 通塾させている親と、一部、同じ質問をした。結果は、「子供らしさが失われる」「いい友人ができる」の２項目に対する両者の評価に大きな差があった。通塾させたことのない親の思い込みか、あるいは、客観的な意見なのか、評価の分かれるところであろう。

〔16〕 小学校についてどう考えているか（母親調査）

全体としての小学校の教育やその方針などにはほぼ満足している。「進学指導」や「能力別クラス分け」などに受験させる母親の要求がみられる。

＜表２－３＞　小学校や先生についてどう思うか

（%）

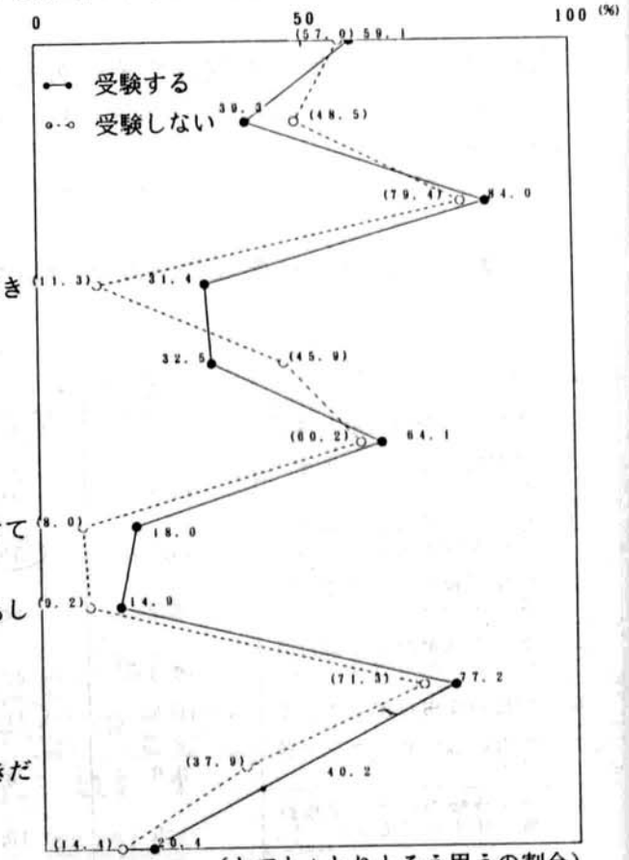
項目＼尺度	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1. 小学校の教育方針に満足	6.1	(51.8)	37.0	5.1
2. 補習授業などもっとすべき	13.8	31.0	(44.7)	10.5
3. 担任の先生は自分の子供をよく見ている	29.0	(51.8)	15.1	4.1
4. 中学受験のための進学指導をすべき	5.8	14.8	(58.3)	21.1
5. クラブ活動など学習以外に力を入れるべき	9.3	32.2	(53.5)	5.0
6. 学校の先生は忙しすぎる	19.5	(41.8)	33.9	4.8
7. 能力に合わせてクラス分けを	3.6	8.4	(48.2)	39.8
8. 中学受験のために学校行事を休ませてもよい	1.5	10.2	37.8	(50.5)
9. 先生の教え方に満足している	19.5	(53.7)	21.5	5.3
10. 学校でしつけやマナーを教えるべき	10.2	29.3	(49.8)	10.7
11. 週休２日制にすべき	6.6	10.0	39.0	(44.4)

（(　) は最大値）

※ 全体的に見ると「小学校の教育方針に満足している（とても＋まあそう思う＝57.9%）」「担任の先生は自分の子供をよく見てくれている（80.8%）」「先生の教え方に満足している（73.2%）」など小学校にはほぼ満足しているといってよいであろう。逆に「補習授業などもっとすべき（あまり＋全くそう思わない＝55.2%）」「中学受験の進学指導をすべき（79.4%）」「能力別クラスにすべき（89.0%）」などに否定的な考えも出ている。さらにこれを中学受験する子供の母親としない母親との比較でみると次のページのようになる。

＜図２－２３＞　小学校や先生についてどう考えるか

1. 今の小学校の教育方針に満足
2. 学校ではもっと補習をすべきだ
3. 子供のことをよく見てくれる
4. 学校は受験のための進学指導をすべきだ
5. 学習以外の事に力を入れるべきだ
6. 学校の先生は忙しすぎる
7. 子供の能力に合わせてクラスを分けてほしい
8. 受験のために学校行事を休ませてもしかたがない
9. 先生の教え方に満足している
10. しつけやマナーをもっと教えるべきだ
11. 週休２日制にすべきだ



（とても＋わりとそう思うの割合）

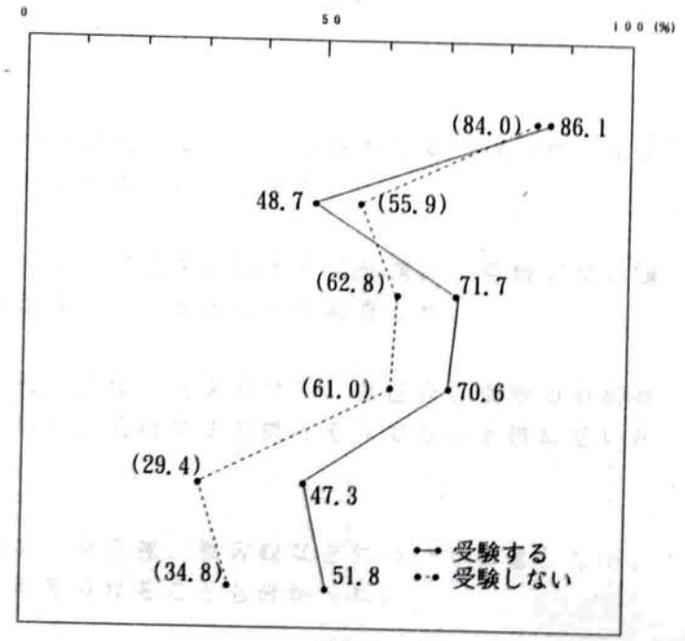
※ 中学受験させる母親とさせない母親とでは「進学指導をすべきだ」「能力に合わせてクラス分け」などに差が見られる。興味深いのは「学校ではもっと補習をすべきだ」の項目で、受験させる親の要求はむしろ少ない。進学塾にたよっているからだろうか。

〔17〕子供の学校でのようすは（子供調査）

「授業中はすすんで手をあげる」、「係活動などを積極的にやる」「授業中は楽しい」は、受験する子供に多い。反対に、「放課後よくあそぶ」は受験しない子供の方が多い。

＜図２－２４＞　学校での様子

1. 友達がたくさんいる
2. 放課後はよくあそぶ
3. 先生は自分のことをよく知っていてくれる
4. 授業中は楽しい
5. 授業中はすすんで手をあげる
6. 係活動など積極的にやる



（とても＋わりと思うの割合）

※ 全体で見れば、「友だちがたくさんいる」「放課後はよくあそぶ」と答えた子供は多い。しかし、受験する子供と受験しない子供とでは、受験しない子供のほうが、よくあそんでいる様子がうかがわれる。また、「授業中は楽しい」「先生は自分のことをよく知っていてくれる」と答えた子供は過半数以上いるが、その中でも受験する子供のほうが、高い割合を占めている。このようなことから、受験する子供は授業に積極的な態度を示すが、放課後のあそびへの参加は控え目であるようだ。また、予想では受験する子供は係活動などには消極的と思われたが、結果は逆であったことも興味深い。